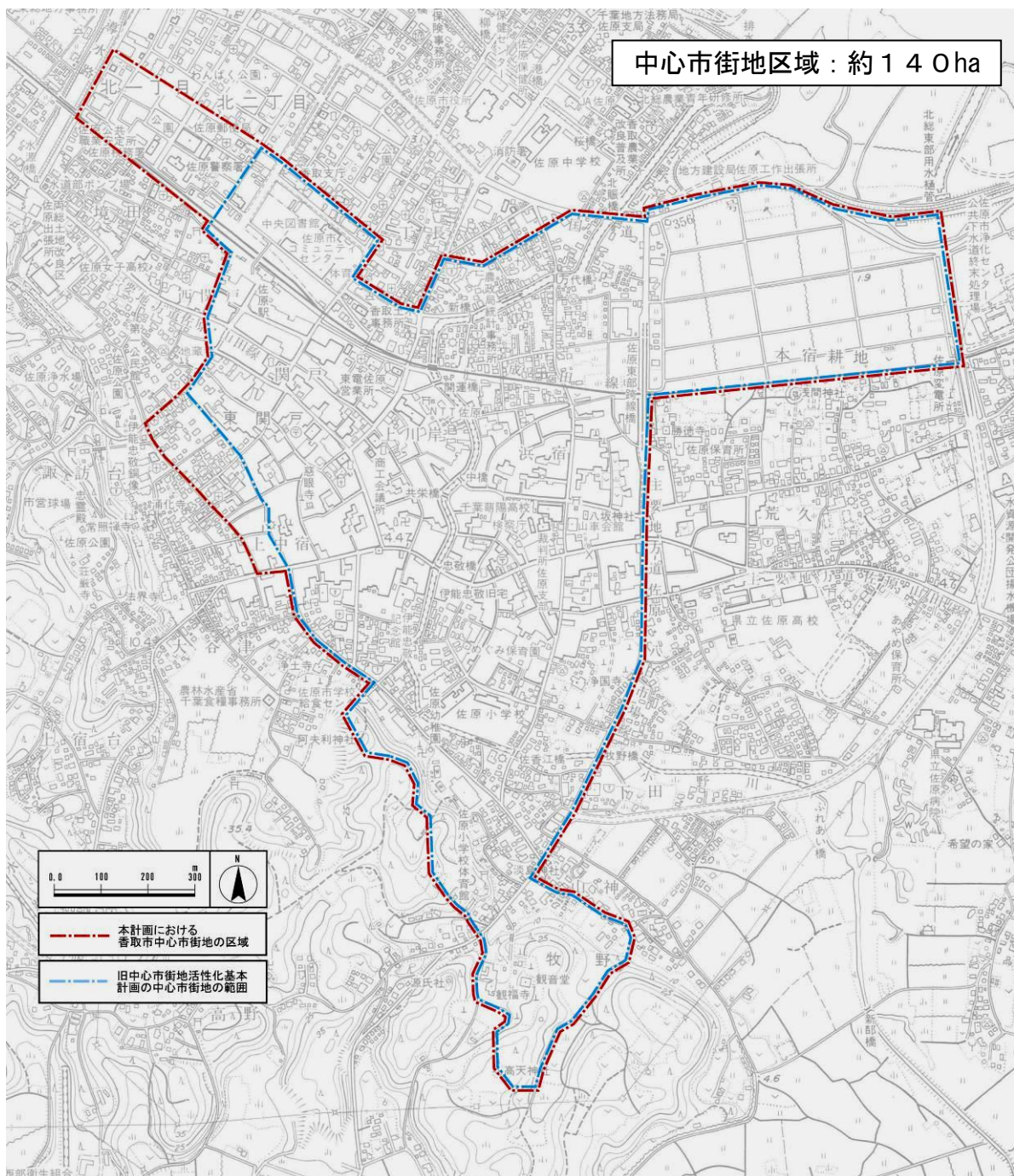


第3章 中心市街地活性化の基本方針

1. 中心市街地の区域

旧佐原市の中心市街地活性化基本計画（平成13年3月策定）では、既存の商業施設が集積する「JR佐原駅周辺地区」、伝統的町並みの保存活用を進める「小野川周辺地区」、新たな交流拠点として位置づけ開発を進める「本宿耕地地区」の3地区をあわせた約130haを対象区域としていた。

今回の新たな中心市街地活性化基本計画では、旧計画の範囲を基に、警察署や郵便局などの公共施設が立地する北1～2丁目と、市営球場や第一公民館に至る西側の一部を追加した約140haを対象区域に設定する。



2. 中心市街地活性化の基本方針

前述のように、香取市中心市街地においては、平成 13 年から旧基本計画に基づいて、活性化に向けた事業や取り組みが継続的に実施されてきた。

このため、新たな中心市街地活性化基本計画の基本方針では、事業や取り組みの継続性担保の観点から、旧基本計画のテーマ、基本方針を受け継ぐことを基本とし、以降のようなテーマ及び基本方針を設定する。

(1) 中心市街地活性化のテーマ

江戸優り “心の観光” でにぎわいの再興 ～住む人・訪れる人みんなが快適に過ごせるまちづくり～

テーマ 1 人々が集い、暮らし、交流する、にぎわいのあるまちづくり

香取市中心市街地は、古くは江戸時代から水運を活用して酒、醤油、漬物等の農業加工品を生産し、またそれらを大消費地・江戸へと運ぶ生産・流通の拠点商業都市であり、多くの人々や物資が行き交うまちとして発展してきた。また、香取市中心市街地は水郷観光の拠点として発展してきたまちでもあり、近年は“おもてなしの心”を持って観光客を迎え、市民と観光客との心の触れ合い・交流をテーマとした“心の観光”を推進している。

一方、中心市街地は、平成 18 年 3 月に佐原市、小見川町、山田町、栗源町が合併して誕生した香取市の「顔」として、香取市全体の社会・経済の発展を支えていくことが求められている。

以上を踏まえ、香取市の「顔」となるよう、人々が集い、暮らし、交流することで、にぎわいを創出し、住む人も訪れる人も魅力を感じ、住民自らが誇りを持てるまちづくりを進め、中心市街地のみならず、市全体の活性化を図る。

テーマ 2 伝統的建造物群と水辺景観を活かした歴史的情緒の漂うまちづくり

香取市中心市街地は、北総の水郷拠点の中核として利根川や小野川といった水辺環境に囲まれ、特に小野川沿いを中心として、江戸時代からの商家をはじめとした歴史的に貴重な建造物が数多く残っている。これらは江戸期以降の拠点商業都市としての繁栄の履歴を色濃く残すものであり、かつて「お江戸みたけりや佐原にござれ佐原本町江戸優り」といわれた江戸情緒を現代に伝えるものである。また建造物については、関東地方で最初の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けており、歴史的な水辺景観と歴史的建造物群の両方を有する数少ないまちでもある。さらに古くからの伝統行事である「佐原の山車行事」は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、先述の歴史的建造物群や水辺景観とともに、この地域ならではの質の高い、本物の伝統・文化である。

このような伝統的建造物群や魅力ある水辺景観を有する小野川、伝統行事を活かしつつ、まち全体として“江戸優り”と謳われた歴史的情緒の漂う都市空間の実現をめざすべくまちづくりを進める。

テーマ3 まちに住むことの楽しさが感じられるまちづくり

本格的な少子・高齢社会をむかえ、都市の外延化・居住地の郊外部への拡大指向から、都市的なサービスや社会資本ストックの充実したまちなか居住への回帰の傾向が強くなりつつある。

香取市中心市街地においても、豊かな歴史的資産や商業機能、公共・公益施設等の生活サービス機能の集積した市街地の活性化を一体的に推し進め、高齢者から子ども達までが、まちなかに安心して楽しく住み続けることのできるまちを実現する。

(2) 中心市街地活性化の基本方針

前述のテーマを踏まえて、香取市中心市街地において目指すべきまちの姿として、以下のような基本方針を設定する。

基本方針1 広域から多くの人を集める“心の観光”の振興 ～歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興～

歴史のある北総の水郷都市として栄えてきた香取市は、豊かな水辺環境と由緒ある建造物群の両者を有する全国的にも貴重な歴史的環境を有している。特に小野川の歴史的な水辺環境が存在し、伝統的建築物群が集積している中心市街地では、近年、市民・行政が一体となった“おもてなしの心”をテーマとした様々な取り組みにより、多くの観光客が訪れるようになり、全国的にも注目される観光地としての地位を獲得しつつある。また中心市街地の周辺には、香取神宮、近年整備された「川の駅・道の駅 水の郷さわら」をはじめとする魅力的な観光資源が点在している。

中心市街地の活性化にあたっては、これら中心市街地の豊かな観光資源を活かすとともに、これまでの市民・行政が一体となった様々な活動を更に充実させ、来街者の方々を“おもてなしの心”を持って迎えることにより、日本全国のみならず海外からの観光客も対象とした“心の観光”をより一層推し進め、もって中心市街地の活性化を図る。またさらに、中心市街地と周辺地域との連携・ネットワーク化を推進することで香取市全体の活性化・観光振興を図る。

基本方針2 住・商・職・文化等の融合する複合機能の集約化とサービス水準の向上 ～安心して住み続けられるまちづくり～

香取市中心市街地は近年、人口減少と少子高齢化の進展が著しく、まちの活力の低下がまちづくりの大きな課題となっている。一方、中心市街地の魅力は、まちの中に商業機能だけでなく、住機能、働く場や文化施設、福祉施設等がコンパクトな範囲におさまり、居住者や訪れる人々が様々なサービスや楽しみを身近に体験できることである。

中心市街地の活性化にあたっては、商業の活性化と併せて、まちなか居住の推進、雇用の場の

確保、文化・福祉等の生活サービスの充実などを図ることにより、住・商・職・文化機能が融合した活性化を促進し、子どもから高齢者までが安心して住み続けられるまちを目指す。

基本方針 3

訪れやすく、楽しく歩ける交通体系の構築 ～安全・安心で快適な交通環境の充実～

歴史的に貴重な伝統的建造物を数多く有し、小野川等の水辺空間にも恵まれた香取市の中心市街地では、多くの観光客が、まち歩きを主体とした観光を楽しんでいる。また、中心市街地の魅力は、様々な施設や生活サービスが徒歩圏内に充実していることにある。

中心市街地の活性化にあたっては、歩行者空間整備や水運の活用により、居住者やまちを訪れる人が安心して、楽しく歩けるような交通体系を構築すると同時に、駅前等の玄関口の魅力向上、駐車場等の整備をはじめとして、数多くの方が訪れやすくするための施設整備を推進する。

基本方針 4

香取市の中心地としての都心機能の再構築 ～商業・生活サービス機能の充実～

香取市中心市街地は古くから広範な範囲から人が集まり、周辺地域の核都市として機能してきたが、近年では成田市をはじめとした周辺地域に大規模な開発や商業核が形成されたため、中心都市としてのポジションを急速に失いつつある。特に JR 佐原駅周辺では大規模店舗の閉店などにより、商店街の活力低下がまちづくりにおける大きな課題となっている。

近年、JR 佐原駅周辺をはじめとして商業機能の衰退が続く香取市の中心市街地を活性化し、中心都市としての機能を回復し、香取市民をはじめ近隣市町居住者にとっての買い物や生活サービスの場としての中心都市としての機能を再構築する。

(3) 中心市街地活性化事業の体系

先に示した4つの基本方針に基づき、中心市街地活性化事業として以下の42事業を位置づける。

テーマ	江戸優り “心の観光” でにぎわいの再興 ～住む人・訪れる人みんなが快適に過ごせるまちづくり～
	テーマ1 人々が集い、暮らし、交流する、にぎわいのあるまちづくり テーマ2 伝統的建造物群と水辺景観を活かした歴史的情緒の漂うまちづくり テーマ3 まちに住むことの楽しさが感じられるまちづくり

基本方針	基本方針1 広域から多くの人を集める“心の観光”の振興 ～歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興～
	基本方針2 住・商・職・文化等の融合する複合機能の集約化とサービス水準の向上 ～安心して住み続けられるまちづくり～
	基本方針3 訪れやすく、楽しく歩ける交通体系の構築 ～安全・安心で快適な交通環境の充実～
	基本方針4 香取市の中心地としての都心機能の再構築 ～商業・生活サービス機能の充実～



中心市街地活性化事業

- | | |
|---|--|
| 1 まちを有名にする
1.1 戦略プロモーション事業 1.3 観光情報発信事業
1.2 フィルムコミッション事業 1.4 広域連携事業 | 5 魅力的なイベントを行い、通りに賑わいを生み出す
5.1 活性化イベントの実施
5.2 連携イベントプロジェクト |
| 2 まちなかへ行きやすくする
2.1 都市計画街路に井宿と倉線整備事業
2.2 大型バス等駐車場プロジェクト
2.3 既設駐車場の利便性向上プロジェクト
2.4 高速バス利便性向上プロジェクト
2.5 南口駅前広場整備事業
2.6 国道51号と中心市街地を結ぶアクセス道路改良プロジェクト | 6 歴史及び文化に触れる場を提供し、潜在する魅力を高める
6.1 文化活動実施プロジェクト
6.2 町屋ステイプロジェクト |
| 3 まちなかへ行きやすくする来街者・顧客へのサービスを高め、中心市街地内を回りをやすくする
3.1 まちなか路地活用プロジェクト
3.2 ウォーキングトレイル促進事業
3.3 小野川観光船運航事業
3.4 車両交通規制
3.5 循環バス運行事業
3.6 レンタサイクル事業
3.7 観光案内機能強化プロジェクト
3.8 観光案内サイン整備プロジェクト
3.9 市民ガイド事業 | 7 飲食の魅力を高める
7.1 食の名物・特産品開発、食文化体験受入れプロジェクト |
| 4 立寄りたくなる魅力的な店舗を増やす
4.1 空き店舗対策事業
4.2 コミュニティ（まちなか）カフェプロジェクト
4.3 まちなか活性化市民アイデアプロジェクト
4.4 コミュニティビジネス支援プロジェクト
4.5 商店街利用促進プロジェクト
4.6 商業者の研修
4.7 （仮称）まちおこしセンター整備事業 | 8 定期的に必要な調査を行い、まちづくりへフィードバックする
8.1 町づくりに有効な調査活動の実施 |
| | 9 美しく住みやすい環境をつくっていく
9.1 町並み整備事業
9.2 重要伝統的建造物群保存地区の防災対策事業
9.3 小野川舟運基盤整備事業
9.4 歩行者空間整備事業
9.5 遊休施設等の活用による3世代交流プロジェクト
9.6 買い物支援サービスプロジェクト
9.7 空き家住宅活用プロジェクト
9.8 まちなかトイレ機能充実プロジェクト
9.9 既存公園の利用快適性改善プロジェクト |
| | 10 マネージメント体制を確立する
10.1 事業推進体制の構築 |

3. 数値目標の設定

香取市の中心市街地の現状と中心市街地活性化の基本方針に基づき、次の4つを中心市街地活性化の目標として設定した。

目標1：歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興

目標に基づく主な施策：

- ・小野川観光船運航事業
- ・小野川舟運基盤整備事業
- ・町屋ステイプロジェクト
- ・町並み整備事業

目標2：安心して住み続けられるまちづくり

目標に基づく主な施策：

- ・(仮称) まちおこしセンター整備事業
- ・遊休施設等を用いた3世代交流の場プロジェクト
- ・コミュニティ(まちなか)カフェプロジェクト
- ・空き家住宅活用プロジェクト

目標3：安全・安心で快適な交通環境の充実

目標に基づく主な施策：

- ・南口駅前広場整備事業
- ・南口駅前駅前駐輪場整備事業
- ・循環バス運行事業
- ・循環バス(周遊ルート)運行事業

目標4：商業・生活サービス機能の充実

目標に基づく主な施策：

- ・空き店舗対策事業
- ・まちなか活性化市民アイデアプロジェクト
- ・コミュニティビジネス支援プロジェクト
- ・商店街利用促進プロジェクト

(1) 「歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興」に対応する数値目標

①数値目標の設定

指標1：主要観光施設・イベントの年間観光客入込み数

活性化の目標として掲げた「歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興」の実態を把握する指標として、主要観光施設・イベントの年間観光客入込み数を設定する。

指標は以下の合計値を用いることとする。

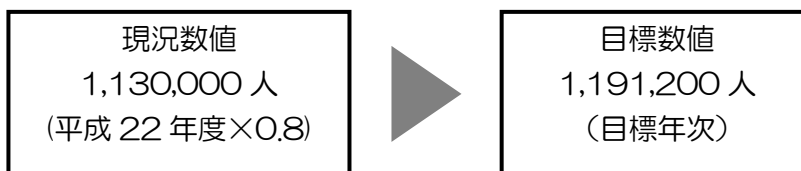
- 伝統的な町並みが残る「小野川沿い」の観光客入込み数
- 主要観光施設である「伊能忠敬記念館」「水郷佐原山車会館」の入館者数
- 水郷の町ならではの観光が楽しめる「小野川観光船」の利用者数
- 香取市の代表的なイベント「佐原の大祭（夏祭り・秋祭り）」の観光客入込み数

主要観光施設などの入込み数については、これまでも継続的に調査されており、最近7年間の主要施設・イベントの入込み客数の推移は以下のようになっている。全体として増加傾向にはあるものの、平成20年から22年にかけては入込み数が微減している。

■中心市街地の主要観光施設の入込客の推移

		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	増減率 (H21/H16)	
香取市中心市街地	小野川沿い	入込数(人)	357,000	266,000	423,000	481,000	524,000	531,000	528,700	148.1%
		増減率	—	75%	159%	114%	109%	101%	100%	
	伊能忠敬記念館	入込数(人)	68,180	65,929	68,600	74,353	93,763	89,601	84,827	124.4%
		増減率	—	97%	104%	108%	126%	96%	95%	
	水郷佐原山車会館	入込数(人)	25,068	24,779	28,096	30,844	33,515	30,604	27,316	109.0%
		増減率	—	99%	113%	110%	109%	91%	89%	
	佐原の大祭(夏祭り・秋祭り)	入込数(人)	430,000	670,000	750,000	665,000	1,030,000	1,002,000	771,000	179.3%
		増減率	—	156%	112%	89%	155%	97%	77%	

計画期間の5年間において、小野川観光船運航事業、町並み整備事業等による観光振興を図り、観光客入込み数の増加を見込む。



②数値目標設定の考え方

(ア) 小野川観光船運行事業・小野川舟運基盤整備事業

市の中心部を流れる小野川では、観光船の運航事業を今後も継続することとしており、その基盤整備として河岸・船着場の河川整備を一体的に行うことを計画している。これらの事業により、小野川観光船の利用者数が20%増加することを想定する。

$$23,526 \text{ 人} \times 20\% = \text{（ア）による増加人数 } 4,700 \text{ 人}$$

小野川観光船
利用者数(H21)

(イ) その他の事業による波及効果

中心市街地で実施が計画されている、「連携イベントプロジェクト」や「観光情報発信事業」、「食の名物・特産品開発事業」などの各種事業を展開することにより、年間観光入込み客数の現状値の5%を増加分として見込む。

$$1,130,000 \text{ 人} \times 5\% = \text{（ウ）による増加人数 } 56,500 \text{ 人}$$

主要観光施設・イベントの
年間観光客入込み数(H22) × 0.8
(東日本大震災の影響から2割減と想定)

以上の想定から、年間観光入込み客数の目標値を設定する。

現況数値 1,130,000 人 (平成 22 年度の約 8 割)	+	(ア)～(ウ)による 増加人数 61,200 人	=	目標数値 1,191,200 人 (目標年次)
---	---	--------------------------------	---	-------------------------------

(2)「安心して住み続けられるまちづくり」に対応する数値目標

①数値目標の設定

指標2：中心市街地の歩行者・自転車の1日通行量

活性化の目標として掲げた「住・商・職・文化等の融合する複合機能の集約化とサービス水準の向上～安心して住み続けられるまちづくり～」の実態を把握する指標として、中心市街地の歩行者・自転車の1日通行量を設定する。

具体的には、平成19年と平成22年に調査された10地点における歩行者・自転車通行量の合計値を用いる。なお、これまでの調査によると休日と平日では1日の通行量が大きく違うことから、休日・平日の通行量をそれぞれ指標として用いる。



■通行量調査の調査地点

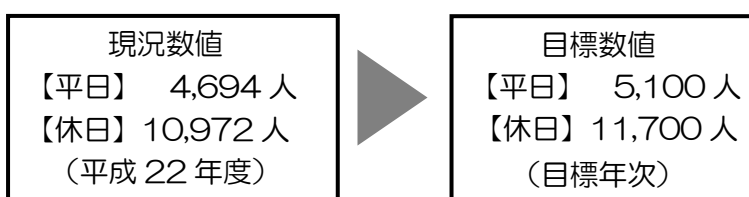
平成19年と平成22年の通行量調査の結果は以下の通りとなっている。平日の通行量は減少傾向にあるが、休日の通行量は観光客の増加に伴い2,000人以上増加している。

■香取市佐原中心市街地における1日(10:00～16:00の6時間)の通行量(各地点両方向・歩行者自転車合計)
(1時間ごとに2階の15分間調査を行っているため、カウント結果を2倍して1日通行量に換算)

(人/日、両方向)

	平日				休日			
	平成19年6月		平成22年6月		平成19年6月		平成22年6月	
	通行量	割合	通行量	割合	通行量	割合	通行量	割合
1 まちの駅わいわい前	962	0.14	606	0.13	710	0.08	938	0.09
2 関戸郵便局付近	830	0.12	820	0.17	546	0.06	630	0.06
3 佐原信金の駅寄り付近	532	0.08	230	0.05	386	0.05	292	0.03
4 線路沿い遊歩道	418	0.06	248	0.05	492	0.06	404	0.04
5 山野医院付近小野川沿い	784	0.12	312	0.07	888	0.10	616	0.06
6 夢時庵付近	702	0.11	492	0.10	1008	0.12	1596	0.15
7 じゃーじゃー橋付近	580	0.09	700	0.15	782	0.09	2648	0.24
8 馬場酒造付近	888	0.13	340	0.07	1526	0.18	1118	0.10
9 佐原町並み交流館付近	626	0.09	632	0.13	1472	0.17	1714	0.16
10 裁判所入口付近	344	0.05	314	0.07	762	0.09	1016	0.09
計	6666	1.00	4694	1.00	8572	1.00	10972	1.00

計画期間の5年間に於いて、(仮称)まちおこしセンターの整備やコミュニティカフェの開設により、市街地活性化を図り、通行量の増加を見込む。



②数値目標設定の考え方

(ア) (仮称) まちおこしセンター整備事業

観光客等の来街者を集め、集まった来街者により中心市街地に人の流れを生み出すことができ、また、「小野川周辺地区」及び「本宿耕地地区」との相互の関わりを強めていくことができる施設の整備を図ることにより、施設の利用者による通行量の増加が見込まれる。

$$\sum \left(\text{各施設の集客数} \right) \times \text{想定される通過地点数} \times 2 = \text{(ア)による増加人数}$$

(往復分)

なお、各施設の集客数は施設の用途別に推計して合計する。

<飲食店の集客数>

$$\text{座席数} \times \text{回転数} (\ast 1) = \text{飲食店の集客数}$$

(※1) 回転数は、類似施設の実績値を参考に設定する。

<商業施設の集客数>

$$\text{売り場面積} \times \text{1坪1日あたりの来客数} (\ast 2) = \text{商業施設の集客数}$$

(※2) 1坪1日あたりの来客数は、類似施設の実績値を参考に設定

<公共施設等の集客数>

$$\text{施設面積} \times \text{1坪1日あたりの利用者数} (\ast 3) = \text{公共施設等の集客数}$$

(※3) 1坪1日あたりの利用者数は、類似施設の実績値を参考に設定

(イ) 遊休施設等を用いた3世代交流の場プロジェクト

空き店舗、空き家など様々な場所を活用して、託児施設や様々な世代の交流施設の提供を図ることで、それらの施設の利用者による通行量の増加が見込まれる。これらの施設は、空き店舗等に設けられることが想定されており、本事業の増分は「(仮称)まちおこしセンター整備事業」の増分にも寄与すると考えられるため、直接的には加算しないこととする。

(ウ) コミュニティ(まちなか)カフェプロジェクト

来訪者と地域住民が憩い、交流できるカフェをまちなかに設置することを計画しており、カフェの利用者による通行量の増加が見込まれる。

$$\underbrace{20 \text{ 座席数} \times 4.0 \text{ 回転数}}_{\text{コミュニティカフェの集客}} \times 2 = \text{(ウ)による増加人数}$$

(往復分)

160人

(エ) 空き家住宅活用プロジェクト

中心市街地に発生している空き店舗を中心市街地に住まいを求める人の住宅として活用することで、現在確認されている空き店舗のうち1割が住宅として活用され、新しい居住者が1日に1度は駅までの道を往復する事を想定すると、以下の通行量の増加が見込まれる。

$$\begin{array}{c}
 \text{現在の} \\
 \text{空き家件数}
 \end{array}
 \times 10\% \times \begin{array}{c}
 \text{1世帯あたりの} \\
 \text{平均人数 (※5)}
 \end{array} \times \begin{array}{c}
 \text{往復分} \\
 2
 \end{array} =$$

**(エ) による増加人数
26人**

(※5) 1世帯あたりの平均人数は、
(H22年・中心市街地の人口) ÷ (H22年・中心市街地の世帯数) により算出。

(オ) その他の事業による波及効果

中心市街地で実施が計画されている、「地域文化の体験・交流プロジェクト」や「既設駐車場の利便性向上プロジェクト」、「まちなか路地活用事業」などの各種事業を展開することにより、通行量の現状値の5%を増加分として見込む。

歩行者・自転車
通行量【平日】
4,694人

× 5% =

**(オ) による増加人数【平日】
235人**

歩行者・自転車
通行量【休日】
10,972人

× 5% =

**(オ) による増加人数【休日】
549人**

以上の想定から、年間観光入込み客数の目標値を設定する。

現況数値【平日】
4,694人
(平成22年)

+

**(イ)～(オ) による
増加人数【平日】
421人**

≒

目標数値【平日】
5,100人
(目標年次)

現況数値【休日】
10,972人
(平成22年)

+

**(イ)～(オ) による
増加人数【休日】
735人**

≒

目標数値【休日】
11,700人
(目標年次)

※(ア)は、現時点では整備内容・規模が決まっていないため、足し合わせていない。

(3) 「安全・安心で快適な交通環境の充実」に対応する数値目標

①数値目標の設定

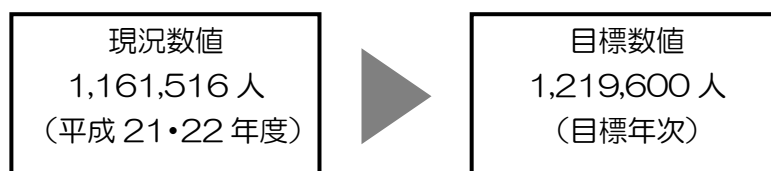
指標3：公共交通（鉄道・循環バス）の年間利用者数

活性化の目標として掲げた「訪れやすく、楽しく歩ける交通体系の構築～安全・安心で快適な交通環境の充実～」の実態を把握する指標として、公共交通（鉄道・循環バス）の年間利用者数を設定する。

指標は以下の合計値を用いることとする。

- J R 佐原駅の年間乗車人員数
- 佐原区循環バスの年間利用者数

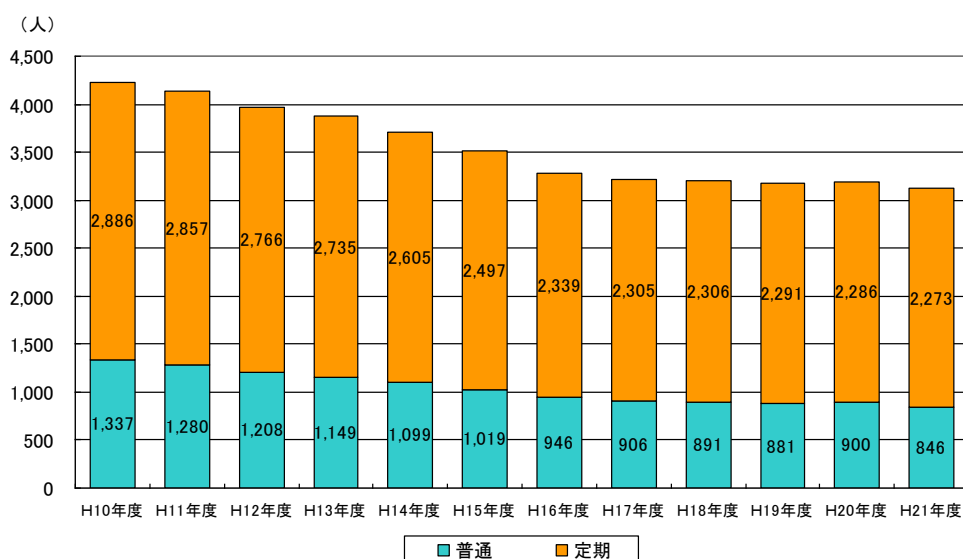
計画期間の5年間に於いて、「南口駅前広場整備事業」「循環バス運行事業」などにより、公共交通（鉄道・循環バス）の利便性向上を図り、利用者数の増加を見込む。



<参考>公共交通の状況

鉄道（J R 佐原駅）の利用者数の推移は以下の通りである。

J R 佐原駅の乗車人員数は減少傾向にあったが、平成 16 年度からは減少傾向に歯止めがかかっており、約 3,200 人／日で横ばいの状態が続いている。また、高速バスの利用者数は、平成 18 年度から 21 年度の 4 年間で約 1.2 倍となっており、増加傾向にある。



■佐原駅の乗車人員（1日平均）の推移

②数値目標設定の考え方

(ア) 南口駅前広場整備事業、南口駅前駅前駐輪場整備事業など

旧計画に位置づけられている佐原駅南口の駅前広場整備は継続して行われ、平成 27 年度に完了予定である。またこれとあわせて駐輪場整備を実施する計画である。この駅前広場・駐輪場の完成により佐原駅の利便性が向上するとともに、中心市街地における来街者獲得のための様々な事業を実施することにより、J R 佐原駅の乗降者数の 5% の増加が見込まれる。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{JR 佐原駅の1日平} \\ \text{均利用者数} \\ \text{3,119 人/日} \\ \text{(平成 21 年)} \\ \hline \end{array} \times 365 \text{ 日} \times 5\% = \begin{array}{|c|} \hline \text{(ア) による増加人数} \\ \text{56,921 人} \\ \hline \end{array}$$

(イ) 循環バス運行事業、循環バス運行事業

現在運行されている「佐原区循環バス」の利便性の向上を図り、自家用車に頼らない交通環境の充実を目指すことで、循環バス利用者数の 5% の増加が見込まれる。

以上の想定から、公共交通の年間利用者数の目標値を設定する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{佐原区循環バスの} \\ \text{年間利用者数} \\ \text{23,081 人} \\ \text{(平成 22 年)} \\ \hline \end{array} \times 5\% = \begin{array}{|c|} \hline \text{(イ) による増加人数} \\ \text{1,154 人} \\ \hline \end{array}$$

以上の想定から、公共交通（鉄道・循環バス）の目標値を設定する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{現況数値} \\ \text{1,161,516 人} \\ \text{(平成 21・22 年度)} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{(ア) ~ (イ) による} \\ \text{増加人数} \\ \text{58,075 人} \\ \hline \end{array} \doteq \begin{array}{|c|} \hline \text{目標数値} \\ \text{1,219,600 人} \\ \text{(目標年次)} \\ \hline \end{array}$$

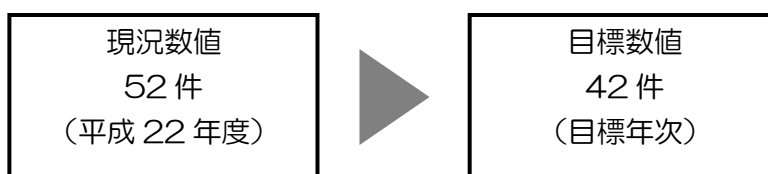
(4) 「商業・生活サービス機能の充実」に対応する数値目標

①数値目標の設定

指標4：空き店舗数

活性化の目標として掲げた「香取市の中心地としての都市機能の再構築～商業・生活サービス機能の充実～」の実態を把握する指標として、空き店舗数を設定する。

計画期間の5年間において、「空き店舗対策事業」や「コミュニティビジネス支援プロジェクト」などにより、商店街の活性化や空き店舗の活用を図り、空き店舗数の減少を見込む。



②数値目標設定の考え方

(ア) 空き店舗対策事業

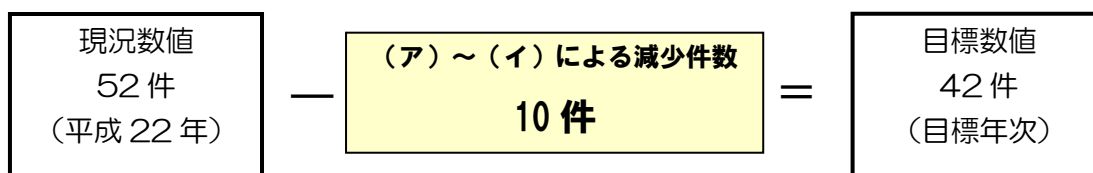
補助金制度の拡充、空き店舗バンクなどにより、空き店舗の活用と新規出店支援を同時に行い、年に2件の空き店舗減少を見込む。

$$2 \text{ 件} \times 5 \text{ 年} = \text{（ア）による減少件数 } 10 \text{ 件}$$

(イ) その他の事業による波及効果

中心市街地で実施が計画されている、「まちなか活性化市民アイデアプロジェクト」や「コミュニティビジネス支援プロジェクト」、「商店街利用促進プロジェクト」などの各種事業を展開することにより、商店街の活性化が図られ、空き店舗の減少にもつながるものと考えられるが、これらの増分は「空き店舗対策事業」の増分にも寄与すると考えられるため、直接的には加算しないこととする。

以上の想定から、空き店舗数の目標値を設定する。



(5) フォローアップの考え方

先に設定した目標の達成度の把握するために、以下の調査を継続的に実施する。

目標1：歴史・伝統を活かした中心市街地ならではの観光振興

調査①：伝統的な町並みが残る「小野川沿い」の観光客入込み数

調査②：主要観光施設である「伊能忠敬記念館」「水郷佐原山車会館」の入館者数

調査③：水郷の町ならではの観光が楽しめる「小野川観光船」の利用者数

調査④：香取市の代表的なイベント「佐原の大祭（夏祭り・秋祭り）」の観光客入込み数

目標2：安心して住み続けられるまちづくり

調査：中心市街地内の歩行者・自転車の1日通行量（平日・休日の各1日）

※調査地点の詳細は、P38に示した中心市街地内の10地点とする。

目標3：安全・安心で快適な交通環境の充実

調査①：JR佐原駅の年間乗車人員数

調査②：佐原区循環バスの年間利用者数

目標4：商業・生活サービス機能の充実

調査：中心市街地内の空き店舗数